

高大接続・英語4技能評価の時代に向け 地域公立高校の可能性と課題

ー英語コミュニケーションテストOPIC適用結果を通じての考察ー
POSSIBILITY & CHALLENGE FOR SPEAKING SKILL UP IN PUBLIC HIGH SCHOOL ENVIRONMENT

2017年8月19日(土)

一般社団法人GLOBAL8

会長 八木 智裕

OPIcとは

OPIc英語テストの概要

実践例に活用出来ると考えたOPIc特徴総括

実践に至った背景

実践(香川県立高松北高等学校OPIc実施)概況

まとめ

提言

● 参考情報

tyagi@global8.or.jp

ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages)が開発した対面インタビュー形式の語学テストOPI→10年前iBT (internet based test)化

LTI(Language Testing International)ライセンスのもと、全世界で販売

- LTIは4技能提供:LPT/RPT/WPT/OPI・OPIC

英語によるコミュニケーションで、課題意識の高いスピーキング力を測定するグローバル標準の英語スピーキングテスト

サービス開始後10年を経て、世界100カ国以上で導入され、現在までに約150万人を超える人が受験

iBT方式で大規模受験が可能

- 同時に多人数の受験可能(PC台数／LANのキャパシティを踏まえて)
- 迅速な結果確認が可能
(テスト結果は5営業日後の13:00以降に確定)

テスト受験時の厳密な個人認証

OPIc iBT SYSTEM (テスト運用)

- ・ OPIc テストシステムにアクセス
- ・ テスト実施 (40分)
- ・ 回答送信 (音声ファイル)



ACTFL Rating SYSTEM

- ・ ACTFL 認証 Raterと少数の認可者以外はアクセス不可
- ・ ACTFL評価手順によるrating

正確で迅速な結果確認が可能なシステム

テストの流れ

オリエンテーション

① Background Survey



職業、関心分野、
レジャー、趣味など
自分に関連ある
選択肢を選ぶ

- 個人に関するアンケートの結果から、関連する問題を出題
- テストに対する安心感、発話量を確保

② Self Assessment



スピーキング能力に関
する説明と回答サンプ
ルから、自分のレベル
を自己診断する

- 自己診断の結果から、問題のレベルを決定
- レベルによって問題の難易度が異なる

受験者のレベル、
関心分野に基づいて
12～15問が出題

ある場所、人、
物事に関する出題

仕事や周辺活動に
関する出題

過去の経験、
仕事などに関する出題

質問を作成する出題

テスト



- ✓ 問題聴取 2回
- ✓ 問題毎の回答時間制限はない

途中、難易度の再調整



2. O P I c 英語テストの概要（まとめ）

対象言語	英語
テスト時間	約60分（オリエンテーション20分、テスト最大40分）
出題内容	Background Surveyを通じて個人に合わせた問題を出題 例えば、職業、レジャー、趣味、関心事、スポーツ、旅行などのトピック
評価基準	ACTFL Speaking Guidelines 2012基準 OPic level 1～7（Novice Low～ Advanced Low）
問題数	12～15問（個人によって異なる）
テストの特徴	●「様々な方法で「話せる」状況を実現」 ●実践的なスピーキング力を測る評価項目 ●高い利便性
評価要素	● Function/ Global Tasks(コミュニケーション継続能力) ● Text Type(文章構合力) ● Contents/ Context(状況に応じた表現力) ● Comprehensibility(質問意図の把握能力) ● Language Control(文法・語彙・流暢さ・発音) →一つの評価領域に偏らず、受験者の会話を総合的に評価

■ CBT:大人数を一斉評価&Adaptive:廻りの受験生に影響されない

- 試験風景(青山学院大学:英語):1分



■ Adaptive:自身の得意領域の不得意認識や問題解決への気付き

- 受験后感想(青山学院大学:他のスピーキングテストとの違い):3分



■ AchievementからProficiencyが実現する世界

- 再挑戦への意欲継続(ポスト時のアンケート結果:JELES47で紹介)

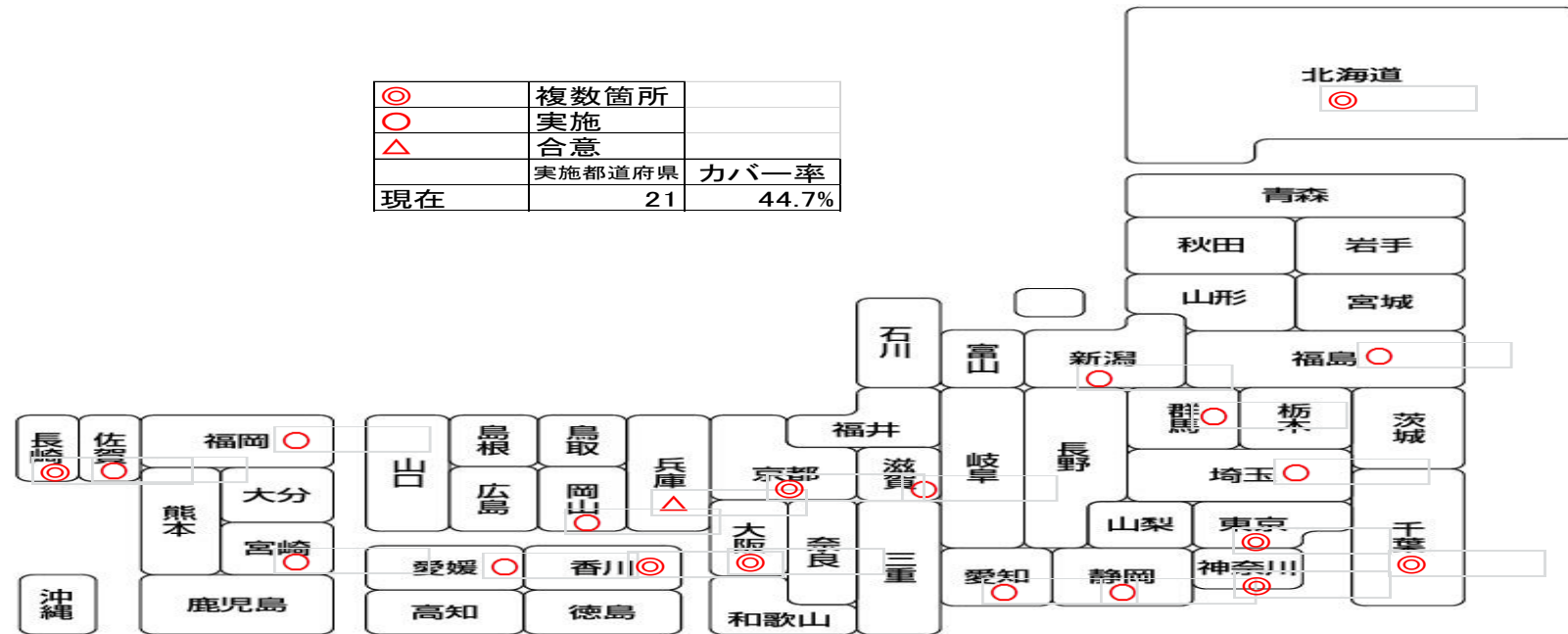
<http://global8.or.jp/JELES47.pdf> p20

事後アンケート質問内容	分布比率
問3. 後日、OPIcテストの再受験を希望しますか？	
()ぜひまた受験したい	41.0
()機会があれば受験してもよい	52.6
()受験したくない	6.4

3. 実践例に活用出来ると考えたO P I c 特徴総括

レベル名称	CEFR	今回実証適用値	言語能力	米国での職務ガイド	修得対象	FSI到達ガイド
Advanced Low(AL)	C1:AH, C2:S B2	9	自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使することができる。	・ Customer Service Agent, Social Worker, Claims Processor, K-12 Language Teacher, Police Officer, Maintenance Administrator, Billing Clerk, Legal Secretary, Legal Receptionist	・ Undergraduate language majors with year-long study abroad experience	1320h
Intermediate High(IH)		8	文法的に大きな間違いが無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。	・ Auto Inspector, Aviation Personnel, Missionary, Tour guide	・ Undergraduate language majors without year-long study abroad experience	
Intermediate Mid(IM3～IM1)	B1	7 6 5	小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 ※IM3(上)、IM2(中)、IM1(下)に細分化	・ Cashier, Sales clerk(highly predictable contexts)	・ L2learners after 6-8 year sequences of study(AP, etc.) ・ 4-6 semester college sequence	
Intermediate Low(IL)	A2	4	日常的な話題はセンテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。	・ Receptionist, Housekeeping Staff	・ L2learners after 4 year high school sequence or 2 semester college sequence	480h
Novice High(NH)	A1	3	簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。	抄録にある文部科学省調査の 平均値は1.94レベル	・ L2learners after 2 years of high school language study	
Novice Mid(NM)		2	既に暗記している単語やセンテンスで話すことができる。			
Novice Low(NL)		1	限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。			

- ICTベースであるにも関わらず全国展開には至っていない時期
- 高校・大学の理解者を得て夫々において実施(地方においては貴重な経験)



4. 実践に至った背景（実践における検証仮説）

ICT技術に不慣れな英語教員

- スピーキング能力育成には教室内、ALT頼りと機会が限られる
 - ・ 自主学習の喚起・定着にはICT能力向上が最短

CALLが無い

CALL或いはPC教室あるが

- ヘッドセットが無い
- ICTガイドがバラバラ
- 管理者側の利便性優先のセキュリティーポリシー

教室有効活用・時代の流れで1人1台のタブレット

- Wifiでは音声・動画の安定確保困難
- ヘッドセット装着口が1つ（恥ずかしがり屋の現状では適用困難）
- MS/iOSでは依然ITガイドの差が大きい

香川県立高松北高等学校概要 <http://www.kagawa-edu.jp/kitah01/top.htm>

- 校長 竹田 忠弘先生(元英語教員)
- 香川県唯一の県立中高一貫教育校(公立32校、私立12校:計44校)
- 「学びの改革推進モデル校事業」の指定を受け、
「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善」適用
- 香川県高松市牟礼町牟礼1583-1
- 5つのコース(18クラス、709名):
 - ①飛翔コース②グローバルコース③サイエンスコース④カルチャーコース⑤スポーツコース

OPIcテスト実施概況

- プリテスト '16/5/20、ポストテスト'17/3/9(当初'16/12/1予定するも失敗)
- 対象生徒グローバルコース履修者1－3年生40名
- プリテスト前の自己分析

とても得意					0.74		
		0.74	4.78	5.15	0.37		>20%
	S	1.1	6.99	5.88	20.59	0.74	>10%
		1.47	9.56	20.22	9.93	0.37	>5%
とても苦手		4.04	5.51	1.47	0.37		
	とても苦手			L		とても得意	

S>L:15.08%

L>S:59.57%

スピーキングに得意性を感じる比率20%

－JELES47発表より－

	0		マスター		
とても得意			1	1	
			2		
S		4	3	12	
		1	10	1	
とても苦手	1	3	1		
	とても苦手		L		とても得意

5. 実践（香川県立高松北高等学校OPIc実施）概況(3/7)

プリテスト後アンケート結果

事後アンケート質問内容	分布比率
問3. 受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？	
() だいぶよくできた	0.6
() 少しよくできた	7.8
() 予想通りだった	19.3
() 予想よりできなかった	48.8
() 予想よりはるかにできなかった	23.5
問4. OPIcテストを受けて今後の学習に対する思いは？	
() すごく勉強する気になった	33.3
() 少しやる気が増した	53.0
() 特に何も感じなかった	10.7
() 少しやる気を無くした	3.0
() 全くやる気を無くした	0

手も足も出ないことは無く、自分の趣味すら喋れない
もどかしさや、意外と得意(TOEICの点数?)と思っていた
リスニングが出来なかった。→やってみよう! 感?

－JELES47より－

高松北校(n=40)		
事後アンケート質問内容	回答数	分布比率
問1. OPIcテストの内容はいかがでしたか？		
() 非常に良かった(すごくおもしろかった)	3	7.5
() どちらかといえば良かった	16	40.0
() どちらともいえない	14	35.0
() どちらかといえば良くなかった	5	12.5
() とても良くなかった(つまらなかった)	2	5.0
問2. 自分の能力が発揮できましたか？		
() 十分能力を発揮できた		
() 少し能力を発揮できた	7	17.5
() どちらともいえない	10	25.0
() あまり能力を発揮できなかった	20	50.0
() 全然能力を発揮できなかった	3	7.5
問3. 受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？		
() だいぶよくできた		
() 少しよくできた	1	2.5
() 予想通りだった	8	20.0
() 予想よりできなかった	20	50.0
() 予想よりはるかにできなかった	11	27.5
問4. OPIcテストを受けて今後の学習に対する思いは？		
() すごく勉強する気になった	12	30.0
() 少しやる気が増した	23	57.5
() 特に何も感じなかった	5	12.5
() 少しやる気を無くした		
() 全くやる気を無くした		

■ プリテスト評価結果

- 高校3年生20名(留学研修体験者) 平均:3.8 偏差:0.83 最高IM2
- 高校2年生10名(留学研修希望者) 平均:3.5 偏差:0.53
- 高校1年生10名(留学研修希望者) 平均:3.8 偏差:0.42

- 考察(私見):

①高校3年生は留学効果が顕在化している面あるものの、受験勉強の影響もあり2技能に特化し、スピーキングを苦手化している層と、そのまま留学効果を定着・強化している層に分かれる。

②着実に4技能に対する前向きな取り組み姿勢と能力が高校1年生の結果から伺える

■ ポストテスト実施結果

- 高校3年生20名(留学研修体験者) が時期の関係で参加出来ず
- 高校1,2年生20名中2名が音量不足等と推定されるUR発生するも期末で除外
又4名はインターネットエラーで正常終了しなかったものの特別依頼で評価実施
- 18名プリ平均:3.7 偏差:0.49、ポスト平均:4.2 偏差0.62
- 効果量:0.89(過去最大級) Cohen(1988)の基準によれば、 $f = 0.10$ (効果量小),
 0.25 (効果量中), 0.40 (効果量大)
- UP/DN率:50%
- ACTFLガイドによれば高校の外国語履修到達目安はIL:16/18=89%到達
残り2名もNHなので留学研修を体験すれば100%到達可能と考える

■ プリーテストの評価結果と自己評価の関係

④事前自己分析（現状と目標）ープリテストーポストテストー今後の目標設定の変容

今後 獲得 したい 評価	Advanced Low			2				1
	Intermediate High		1	1	1		1	
	Intermediate Mid		10	12	1	③④12		
	Intermediate Low	5	2	3	1②⑤⑧6			
	Novice High		1	⑩②				
	Novice Mid		①					
	Novice Low							
		Novice Low	Novice Mid	Novice High	Intermediate Low	Intermediate Mid	Intermediate High	Advanced Low
現状の評価（自己評価）								

事前自己分析（現状と目標）：黒字（n=40）

プリテスト結果：青字（n=40）

ポストテスト結果：紫字（n=14）

ポストテスト後の今後の目標：オレンジ字（n=14）

ポストテスト後のアンケート結果

		高松北校(n=20)	
事後アンケート質問内容	回答数	分布比率	
問1. 前回(プリ)テストに比べ、自分の能力が発揮できましたか？			
() 十分能力を発揮できた			
() 少し能力を発揮できた	6	30.0	
() どちらともいえない	6	30.0	
() あまり能力を発揮できなかった	8	40.0	
() 全然能力を発揮できなかった			
問2. 受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？			
() だいぶよくできた			
() 少しよくできた	5	25.0	
() 予想通りだった	6	30.0	
() 予想よりできなかった	8	40.0	
() 予想よりはるかにできなかった			
問3. 後日、OPIcテストの再受験を希望しますか？			
() ぜひまた受験したい	4	20.0	
() 機会があれば受験してもよい	9	45.0	
() 受験したくない	7	35.0	

事後アンケート質問内容	分布比率
問1. 前回(プリ)テストに比べ、自分の能力が発揮できましたか？	
() 十分能力を発揮できた	7.7
() 少し能力を発揮できた	30.8
() どちらともいえない	30.8
() あまり能力を発揮できなかった	23.1
() 全然能力を発揮できなかった	7.7
問2. 受験前の予想と比べてどのくらいできたと感じましたか？	
() だいぶよくできた	7.7
() 少しよくできた	19.2
() 予想通りだった	30.8
() 予想よりできなかった	29.5
() 予想よりはるかにできなかった	12.8
問3. 後日、OPIcテストの再受験を希望しますか？	
() ぜひまた受験したい	41.0
() 機会があれば受験してもよい	52.6
() 受験したくない	6.4

スピーキングへの抵抗感は少なくなったが、やはり簡単に上達するものではない。継続的な学習意欲の形成には貢献？

—JELES47より—

● 考察(私見):

- ①ICT環境によるストレス 但し、ストレス耐性もグローバル社会では必要→電話テストでは実力発揮も困難？
- ②アクティブラーニング等色々工夫・努力の取組みはされているものの現行高校教育・大学入試ではスピーキング能力向上にモチベーションが利いていない生徒や限界を感じる生徒もいる？

5. 実践（香川県立高松北高等学校OPIc実施）概況（参考資料）

● JELES46ポスターp7(<http://www.decode.waseda.ac.jp/announcement/documents-for-2016-03-12-13/TomohiroYagi.pdf>)で発表

No	サイト	クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率	備考
1	東京大学	工学部Mスカイプ	20	6.8	1.54	7.5	1	0.42	65	1	70	100	RISTEX検証対象
2	青山学院大学	経済学部ゼミ生	30	5.8	1.58	6.2	1.71	0.25	20		36.7	60	
		3年次	19	5.6	1.84	5.9	1.87	0.16	36.8		36.8	63.2	
		同上卒業前	19	5.9	1.87	6.2	1.89	0.16	21.1	2	31.6	73.7	
		新3年生	24	5	1.57					2	8.3	45.8	襷は繋がるか？
3	関西大学	KU-COIL	13	4.8	1.36	5.2	1.09	0.29	46.2		7.7	76.9	
4			20	4.7	1.23	4.9	1.02	0.16	25		5	70	
5			13	4	1.15	4.6	1.12	0.54	61.5			53.8	科研費
6			99	3.9	1.09	4.1	1.04	0.22	24.2		2	26.3	
7			8	3.8	0.46	4.1	0.64	0.65	37.5			25	プリ19名
8			14	3.8	0.58	3.9	0.86	0.17	7.1			21.4	
9			19	3.8	1.08	3.8	1.26	0.00	5.3			31.6	
10			16	3.6	1.26	3.8	1.33	0.16	18.8		6.3	12.5	科研費
11	実践女子大学短期大学部	教材統制スカイプ	23	3.4	1.08	3.7	0.83	0.28	21.7			17.4	
12	実践女子大学短期大学部	一般スカイプ	19	3.1	0.85	3.3	0.82	0.24	26.3			5.3	
13	実践女子大学短期大学部	海外短期留学	20	3	0.82	3.7	0.75	0.85	40			10.0	
14	西九州大学	留学準備短期合宿	29	2.5	0.63	3.1	0.75	0.87	55.2			0	
15	関東国際高校	1年生ハワイ	20	3.0	0.83			#VALUE!					
16	某中校一貫校	中学3年生	69	2.8	0.71	3.4	0.76	0.85	59.4				オーストラリア修学旅行の中間層半分のホストテスト
			494										
cf	高校3年生26年度調査		16,583	1.94									

5. 実践（香川県立高松北高等学校OPIc実施）概況（参考資料）



- JACET第55回(2016年度)国際大会プログラム '16/9/3
OPIc導入によるスピーキングに対する意識 変容の分析(京都大学・金丸)

■ オンサイトテストを実施する際のICT環境の実態と課題

- 利用可能なPCは教科情報のPCのみであった
- ヘッドセットも無く、県教委の調達で3校使い廻しを行った
- ヘッドセット装着もアダプターが後ろ付で取り外しが非常に困難
- ICTリテラシーは総じてオペレーションを行えるレベルにあるが、せっかちな生徒においては操作ミスも見受けられる
- 音響系（特にスピーカーの不具合調整対応）は最低限の事前点検と調整が時間制約からも必須であった
- 県下全てのPCが1つのサーバーに繋がっており、セキュリティの関係で音声・メディア系のファイル交換が禁止されていた
- LANのスペックが10MBps（vs4G・LTE75~100MBps）であったため初期画面読込等で多くのフリーズ状態が発生し、全体の円滑なテスト運行を妨げた

4技能育成・評価環境を高いレベルで均一に揃えることは困難

→大学等がハブ機能となって公開型環境整備・提供が望まれる

近隣の香川大学においてロールモデルも存在するものの共通課題も存在

● 四国初のOPIc最高評価のAL獲得の声（香川大学教育学部・堀家 利沙さん）

OPIcテストは、現在の自分の英語力とコミュニケーションスキルを確認できる良いテストだと思います。このテストで質問される内容は、自分のバックグラウンドや趣味に合ったものであるため、外国人の友達と話す感覚で、コンピューター上のアバターとの会話を楽しむことが出来ます。また、1つの質問に対して、話す時間を自分で調整しながら決められるのもこのテストの魅力で、話したい内容や興味のあるトピックであれば、ゆっくりと時間を取りながら、満足のいくまで話せました。

私が英語のスキルアップを目指す理由は、**高等学校の英語教師になりたい**と考えているからです。グローバル化に伴い、英語で自分の考えをしっかりと伝える力の重要性が今、高まっています。今回、OPIcテストを受験する機会を頂き、英語で相手に自分の思いを伝えるためには、まず英語の基礎能力が確実に定着している必要があるのだと改めて実感しました。難しい表現や単語を無理に使おうとするのではなく、英語の文構造を理解した上で、丁寧に会話をするからこそ、相手に理解してもらえる英語を話すコツなのではないかと思います。

今後の抱負は、どの国出身の方が聞いても聞き取りやすいクリアな英語をマスターすることです。日本語訛りを完全に消して、英語のネイティブ・スピーカーと全く同じ様に話せるように努力するということではなく、イントネーションや英単語のストレスを意識しながら明確にはっきりと発音できるようにしたいと考えています。そのためにも、**自信がないからと曖昧に発音をごまかしてしまうことがないように、英語で話す機会を増やし、日々楽しみながら練習していきたい**と思います。

<http://global8.or.jp/posts/service3.html>

- 英語発信技能評価システムの構築とその応用研究 **済** (25370644 長崎県立大学 上村)
- ウェブ会議を取り入れた発信型の指導が英語スピーキング力に与える影響 **完了**
(26370675 法政大学 飯野)
- 大学英語教育におけるスピーキングテストの比較:指導法及び学習者要因とのモデル構築 **完了** (26370738 聖心女子大学→ICU 藤井、共同研究:津田塾大学 稲垣)
- 英語スピーキング能力を伸ばす授業法:その指導法と成果の可視化に関する実証的研究 **最終年** (15K02681 愛媛大学 長崎)
- 日本人英語学習者へのオンライン会話活動導入に向けたガイドライン策定 **最終年**
(15K02735 サイバー大学 坂本)
- 英語オーラルコミュニケーション能力伸長の可能性-語彙学習方略と反転授業に着目して **2年目** (16K04721 同志社女子大学 若本)
- 多読・多聴・多話活動が理系学生のスピーキング力に与える影響の実証的研究 **2年目**
(16K02867 摂南大学 松田)
- 今年採択複数件(日本語OPICも開始) 累計10件突破!

- **平成26年度英語力調査(高校3年生)**

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2015/07/03/1358071_01.pdf

- **八木智裕(2017).「外国語コミュニケーションに対する自己認識開示と客観的評価提供による学習方法の変革に向けて」『日本英語教育学会・日本教育言語学会第47回年次研究集会』**

<http://global8.or.jp/JELES47.pdf>

- FSI <https://www.state.gov/m/fsi/> **文中関係部分は** <http://www.global8.or.jp/FSI.pdf>

- **CEFR検証**

https://en.wikipedia.org/wiki/Common_European_Framework_of_Reference_for_Languages

- **掲載元データ出展**

<http://global8.or.jp/OPIc%20CEFR%20Study%20Final%20Report%20pdf.pdf>

一般社団法人Global8は、グローバルに通じる人材育成において、ACTFLに準拠した言語コミュニケーション力の評価をベースに、サービスを相互学習する法人です。

学術会員

ACTFL/OPI・OPIcをベースに

①大学英語教育学会(JACET)

8/29-31第56回世界大会@青山学院大学

②全国英語教育学会(JASELE)

8/19-20第43回研究大会@島根大学

③外国語教育メディア学会(LET)

④一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)

⑤公益社団法人日本語教育学会

⑥グローバル人材育成教育学会(JAGCE)

企業会員 ①-⑥に加入し「つながり」に貢献します

JASELE会員からの
学術会員参加大歓迎！

<http://global8.or.jp/member.html>

相互認証会員
賛助会員



時間軸と空間軸を見据えたつながり
Global8 → ∞